

「弟ができる」

一宮南部小・4 中村 結菜

わたしのお母さんのおなかに、赤ちゃんが来ました。せい別は、男の子です。わたしは、最初は、女の子がいいなと思っていただけ、今はとても楽しみです。生まれる予定日は、十月二十日と言われていきます。わたしの家族では、おなかにいる間だけ、赤ちゃんのことを、「つーちゃん」とよぶことにしています。

夏休みに、赤ちゃんの服を見に行きました。コンビドレスという服を、わたしと妹とお母さんが一つずつ選びました。わたしは、うすい緑色の水玉もよりの服を選びました。妹は、くまがキャンプをしているような服を選びました。お母さんは、パンダがらの服を選びました。

服を選んでいるとき、わたしは不思議に思いました。どうして男の子なのにコンビドレスを買うのだろう。そのことが気になったので、お母さんに聞いてみました。すると、

「コンビドレスはズボンのようになるんだよ。」
と、教えてくれました。

わたしは、本当にスカートのようなのがズボンになるのか気になりました。そこで、家に帰ってからふくろを開けて、妹といっしょに、ズボンになるか試してみました。すると、わたしも妹のお母さんの、全部ズボンみたいになりました。二ヶ月後に、つーちゃんにコンビドレスを着せるのが楽しみになりました。

わたしには、二つ下の妹がいます。妹は、わたしが二才のころに生まれました。だから、わたしは、お母さんのおなが大きかったことは覚えていません。

この間、アルバムを出してきて、妹が生まれたときの写真を見ました。アルバムには、妹が生まれたときに、近くで見ているわたしのすがたがうつっていました。そのときのことをお母さんに聞くと、「さな(妹)が生まれたときは、ゆうなど、お母さんのお姉ちゃんがいてくれたんだよ。ゆうなが生まれるときは、お父さんがそばにいてくれたんだよ。つーちゃんが生まれるところをゆうなどとさなに見せてあげたかったけど、今はコロナで立ち合いができないんだって。」

と、言いました。わたしは、生まれてくるのを見たかったので、とてもがっかりしました。でも、つーちゃんとは、十才はなれていきます。これから起こるいろいろなことを覚えていられると思うので、うれしいです。

つーちゃんはおなかの中でよく動いています。前は、おなかをさわらないと分からなかったけれど、今は、おなかを見ているだけで動いているのが分かるようになりました。

この前、お母さんがこんなことを言っていました。

「さなはよくチャイルドシートからぬけ出すから、ぬけにくくするベルトをつけたけど、無理やりぬけ出していたよ。つーちゃんもよく動くし、そんなふうになるのかな。」

それを聞いて、わたしは、妹らしいなあと思いました。そして、よく動くつーちゃんのせいかくを考えてみました。つーちゃんはどんなせいかくかな。いろいろと気になることがあるので、生まれて

からつーちゃんのお世話をして、つーちゃんのことをたくさん知りたいです。

わたしは、とても不思議だと思ふことがあります。それは、赤ちゃんがどのように成長していくのかということなんです。いつしゃべれるようになるのかな。首がどのくらいですわるのかな。どれくらいで歩けるようになるのかな。もう今から楽しみです。

それに、お世話もしたいです。ミルクを飲ませてあげたり、服を着せたり、お風呂に入れてあげたりしたいです。ミルクはどんな味がするのか。どうしてミルクだけで大きくなるのかな。赤ちゃんは不思議がいっぱいです。いっぱい遊んでいろんな不思議をかい決したいです。

今はお母さんのおなかが大きいの、夏休みの間、妹とおふろそうじをしています。お母さんは、

「助かる。ありがとう。」

と言ってくれます。きれいなおふろで赤ちゃんをむかえられるように、ぴかぴかになるように毎日がんばっています。

今は、どんな名前にするか考えていますが、まだ決まっています。家族で考えています。つーちゃんに会える十月が、待ち遠しいです。